

令和6年 第1回 東近江市政策推進懇話会 会議録

日時 令和6年5月31日（金）午後2時から午後4時20分まで

場所 東近江市役所301会議室（本館3階）

出席者 計22名

委員15名

深尾昌峰委員	向 春美委員	谷川裕一委員	湯ノ口絢也委員
井上由美委員	安田 剛委員	村田吉則委員	増田伊知郎委員
大塚ふさ委員	堤 洋三委員	白銀研五委員	青地弘子委員
谷川尚己委員	長谷川嘉彦委員	藤田明男委員	

（欠席：原 英児委員 矢島之貴委員 山崎 亨委員 上阪よう子委員
筒井 正委員）

事務局（企画部）7名

部長 曾羽道明	次長 中堀智之	管理監 古川 暁
政策推進課 課長 西川 寛	課長補佐 上林亜紀	
係長 小杉武史	主事 古川祐磨	

1 開会

事務局挨拶： 本懇話会委員への就任、また、本会への出席依頼に際し、公私ともに多忙な中、快諾していただいたことに厚く御礼申し上げます。（部長）

本市では、まちづくりの基本的な指針である総合計画に基づき、各部局でそれぞれ施策を進めている。先般、人口戦略会議から消滅可能性都市などの発表があったが、全国的に急速に少子高齢化が進み、人口減少が進んでいるという課題に重点的に取り組むため、総合戦略や定住自立圏共生ビジョン等の各計画を策定し、政策を進めている。

これらの計画については、毎年進捗管理をしながら本懇話会において方向性に対する意見等をいただくこととしているが、今年度末に総合戦略が、また来年度には総合計画がそれぞれ計画期間の満了を迎えることから、新たな計画の策定をすることになる。また、来年の2月11日に市制20年を迎えるというタイミングでの大きな計画の改定でもあるため、各分野で活躍されている皆様からの御意見を賜りたい。実りある会議になるよう、活発な議論をお願いする。

事務局 : 各委員及び事務局の紹介、資料の確認

2 政策推進懇話会 座長及び副座長選出について

事務局 : 政策推進懇話会要綱第5条【資料2】の規定に基づき、委員の互選により座長及び副座長を選出することとなっているが、どのように選出するかお諮りしたい。

委員 : 事務局に一任する。

事務局 : 事務局案として、座長に深尾昌峰委員、副座長に矢島之貴委員を提案したい。

委員 : 異議なし。

事務局 : 就任に際し、深尾委員から挨拶をお願いする。

座長 : 先ほどの部長からの挨拶にもあったように、今期はたくさんの計画を議論していく必要があります、この懇話会としても非常に大変になることとなるが、以前からの委員は御存じのように、この懇話会は、自由闊達に意見を話し合う場となっており、東近江市をよりよい街にしていくために、それぞれの専門性の立場から遠慮なく発言をして、この場で様々な意見を出せるようお願いする。

3 議題

(1) 各種計画について【資料3】

事務局 : 資料説明

座長 : 今の内容について、各委員から御質問・御意見はないか。

委員 : 「資料3-2 令和6年度総合計画・総合戦略策定スケジュール」で、「政策推進懇話会と総合計画審議会については、できるだけ同日開催ができるようにと考えている。」との説明があったが、同日開催とは、どちらかが午前で、もう一方が午後という一日中の開催となるのか。

事務局 : どちらも午後での開催となるよう考えている。

(2) 地方創生に関する令和5年度の実績等について

ア 地方創生施策の実績について 【資料4】

イ デジタル田園都市国家構想交付金事業について 【資料5～6】

ウ 東近江市まち・ひと・しごと創生総合戦略について 【資料7】

エ 東近江市定住自立圏共生ビジョンについて 【資料8】

事務局 : 資料説明

- 座長 : 今の内容について、各委員から御質問・御意見はないか。
- 委員 : 資料5で「シガリズム」は県の事業だということだったが、資料6を見ていると、市が実施しているようだがどのような事業なのか？
- 事務局 : 県が各市町の観光事業と連携して取り組む広域連携の事業であり、県と市、それぞれが事業を実施している。
- 委員 : ふるさと納税について、総合的に、市にとってプラス方向になっているのか。
- 事務局 : なっている。

4 意見交換

「自治体及びコミュニティの持続可能性」

- 座長 : 先般、人口戦略会議が地方自治体の「持続可能性」分析レポートを公表した。東近江市の人口の推移については、本日の意見交換用資料により説明を事務局からしてもらい、各委員の職場やお住いの地域周辺での人口減少に伴う現状や感じられていること、対策等について、それぞれの御意見を伺いたい。
- 事務局 : 資料説明
- 座長 : 各委員からの意見を伺う。

【各委員からの意見】

- ・所属団体のアクションプログラムのひとつに、JR能登川駅東口開発に関し、商店街ににぎわいを創出するための取組があり、市の発展にも寄与することから、団体として見届ける必要がある。
 - ・国道バイパス道路整備について、道が狭くて大型が対向できない現状であり、調整していかないといけない。
 - ・どの地域も若年層が市外県外からUターンしてこない。
 - ・若者に魅力のあるまちにしないといけないと考える。
-
- ・人口戦略会議のレポートについては、若い女性に対し、社会での活躍だけでなく、出生率の向上のための出産や産後は育児もよろしく、というとても荷が重いように感じる。
 - ・子育てについて、多世代で社会が支えた昭和のような形がよいのかとも思う。

- ・スモールビジネス、古民家の改築、コミュニティへの参加に回帰しているのではないか。

- ・どのように地域のコミュニティを維持していくのか、民からの声もあがっていかなければならない。

- ・東近江ケーブルネットワークの加入者は高齢者が多く、加入率が減ってきている。

- ・若者はスマホ動画を観る傾向がある。

- ・増田レポートからの10年間、自治体間で人の取り合いをしていたのではないか。

- ・産めよ、増やせよで、サポートが足りないのでは、出産や育児に対する不安感が増すばかり。預ける場所や安心して働ける環境の充実が必要ではないか。

- ・結婚願望はあっても、異性と話す機会がなかなかない人もいる。

- ・地域に独居老人が多く増えている。独身の男性、女性もいる。子どもを産める世代の方が結婚していないのが残念に思う。

- ・女性の社会参画、活躍にスポットが当てられて、子育ての楽しさ等にスポットが当てられていないのではないか。

- ・子どもを育てるやりがい、楽しさもあるので、若い方に教える政策も必要ではないか。

- ・大学では、どういった学生を受け入れ、どのような学生を送り出して、地域に根付いてもらうのかということを取り組んでいる。比較的近隣から進学してきて、地元で先生になるという学生が多く、特にそうした教員養成について力をいれているところである。

- ・滋賀県は流出が多い一方で、学生の流入も多い側面がある。

- ・外国の食料品店等は、ほぼ外国人の利用に限られ、コミュニティとしてはモザイクのように小さい。

- ・障害を持つ子の保護者の人間関係等が薄くなりがちで、特定の人との関わりに限られてくる。こうした子どもや家庭への理解をどのように地域に広く還元していくのかというのも重要な課題である。

- ・市内大学の学生が市内で下宿をするには、アルバイト先が近くに必要。学生がまちの中で活動でき、ここに残るための取組ができればよいと思う。

- ・中学校部活動の地域移行（連携）に関する活動をしており、地域コミュニティで中学生、小学生を育てるという風潮がさらに高まればと考えている。

- ・もともと本市はスポーツに理解のあるまちであり、スポーツを柱としてコミュニティが発展していくような形ができればと思う。

- ・主にハード面（インフラ整備）からまちづくりに取り組んできたが、道路ができないとまちづくりは進まない。道路があることによって、企業誘致や雇用の創出が起り、人々の定住につながる。若い人が望むような就業先の選択肢の幅も必要である。

- ・行政としては、一つ一つの施策の推進に目が行きがちであるが、より大きな視点でコミュニティ施策について考えていきたい。

- ・自身の企業では技能実習生の受入れを行っている。コロナ禍には一時的にできなかったが、昨年から再開し、インドネシアやミャンマーからの人材が増えてきている。

- ・人材の確保が難しく、外国人の継続的な雇用を進めなければいけないと考えている。

- ・出生率を上げていくという点では、子育てなどへの価値観が以前と比べて多様化しており、今の子供たちが将来どのように育っていくのか興味がある。

- ・まちづくりについて、旧在所では道路整備が十分でないところや規制がかかっていて開発が進まないところがある。人の流出や空家の増加もあることから、今後、行政とも相談の上でインフラ整備を進めていきたいとも考えている。

- ・人口流出は止められなくても対策は必要だと考える。

- ・地域の祭りやイベントも継承が困難になり、子どもや若者が一堂に会するイベントがなくなってきている。そうしたことが若者の転出にもつながると感じることから、子供の頃に楽しかった思い出のある世代がその環境を作り、伝えていく必要がある。

- ・一次産業は就業者が高齢化している。全ての産業で言えるかもしれないが、若い世代に市内の産業の魅力をPRし、それぞれの産業に就いてもらって、定住してもらおう取組が必要と思う。

- ・環境を整えていくことで着実に人口は増えていくと考える。

- ・子育てでまず戸惑ったのが、子どもをどこで産むかについて。八日市付近では産院に入れず（キャパの問題）、甲賀市で出産することになった。東近江市総合医療センターもあるが、実際には全然入れない。

- ・子育てを支援する各種行政サービスは整ってきているが、入り口となる出産を安心して行える環境整備にも注力してほしい。

- ・コミュニティが希薄化している。デジタルも影響しているかもしれない。結婚にも影響しているのではないか。

- ・分析レポートについて、対策は書いてないことに立ちを覚える。国策としての対応が必要ではないか。

- ・産婦人科と外科のドクターの数は、訴訟となるケースもあることから減ってきていると聞く。

- ・地域では若者定住を目標にしており、若者定住対策イベントで若者の声を聞きとり、今後の取組を検討しているところ。

- ・福祉も人材不足が課題である。

- ・介護の現場では、資格が必要な業務もあるが、不要な業務も多くあり、そうした部分で、元気な（働ける）高齢者のネットワーク化を図り、互いに助け合う就労支援の仕組みが必要かと思う。

- ・市外から移住してきた身として、本市には数多くの文化財をはじめ、魅力的な観光の要素が存在する。

- ・天声人語に「パンと薔薇で生きている。」とあった。パンは生きるために必要で薔薇は尊厳をいう。人には両方が必要。

- ・デジタルを進める上で、国全体で優位性が危なくなっている。理系の学生が減って質が落ちている。

- ・人口減少社会の中で、モビリティとインフラ管理の効率化が大事である。

- ・魅力づくりでは、インスタ映えなどSNSで突然バズったりすることがある。調査隊などを作り、市の魅力をUPし、広めるようなSNSを発信した場合に少額でも報酬を出すといったような、若者が楽しんで動く仕組みを作っては。

〈閉会〉